

先人の偉業をたたえ 頌徳碑などできる

児童公園で人づくり

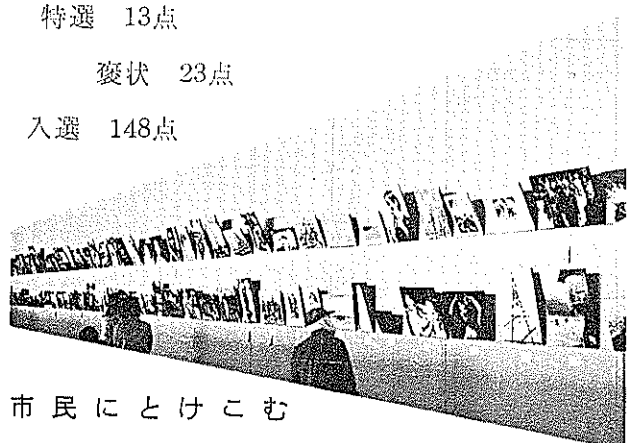


明治から昭和の初期にかけて、自由民権運動やフイリビンの独立運動、満蒙の経営などの海外にまで活躍された国事の志士、坂本志魯雄先生をたたえる頌徳碑と中岡慎太郎先生遺徳の地の記念碑の除幕式が、両家の縁者を招き、このほど突崎の国道三十二号線添いにできました坂本公園で行なわれました。

ました、佐用町の坂本繁見さんが工事費の全額を寄贈され、碑文は寺尾豊参議院議員の筆になり、側面には「不憂不惑不懼」と大義毅先生から坂本先生に贈られた書を写したものをききみこんでいます。

中岡慎太郎先生遺徳の地の記念碑は、奈路の宮本正清先生の私財によってつくられたものです。ところで碑を建設しました坂本公園は、三十二号線の改良工事で廃道となった十ヶを市が建設省から払い下げを受け、公園として地元の人たちによって整備されたものです。ゆくゆく市ではこの公園を児童遊園地として活用し、先人につづく人づくりに役立たせることにしています。

- 選者は、つぎのとおり。
- 〔洋画〕
- ◇特選 「生きていてよかった」
- 島村義一、〔廃鉄B〕■田島淳巴、〔石像〕■沖正浩
- ◇褒状 入交啓、土居健男、前田憲一、橋詰正利、細川義彰、田島榮、公文大朗
- 〔日本画〕
- ◇特選 「静」■橋詰正利
- ◇褒状 伊尾木正太郎
- 〔工芸〕
- ◇褒状 永田恵子
- 〔漫画〕
- ◇特選 「ある成人式」■沢木英世
- ◇褒状 葛目義人
- 〔書道〕
- ◇特選 「鎌倉山」■弘末咲翠、
- 「厳眉山の秋」■山下華仙、
- 「秋景」■川内悠彦
- ◇褒状 松村富、淡木万亀、関田一黄、森本華村、溝淵清琴
- 〔写真〕
- ◇特選 「遅れた仲人」■北村起章、
- 「三界万霊像」■土居正道
- 「北条の石仏」■白浜泉一、
- 「苦行」■山本次男、
- 「煙突」■溝淵教豊
- ◇褒状 竹村速夫、浜田司誠、原孝士、沢谷武、山本啓正、水田貴去、田内文夫



市民美術展

市民美術展はこれまで八回、回を重ねるたびに愛好者を増し、そのレベルも急速にのびて地方美術展としては上位にあるようです。

- 市民美術展はこれまで八回、回を重ねるたびに愛好者を増し、そのレベルも急速にのびて地方美術展としては上位にあるようです。
- 昨年十二月一日から八日まで市民体育館で開かれましたが、こどもの作品も展示されなかなか好評でした。
- 褒状以上の入選 148点
- 褒状 23点
- 特選 13点

坂本志魯雄先生の事蹟

明治四年四月一日、亀岩の坂本松次氏の二男として生れ、坂本志魯雄の高唱した自由民権運動に身を投ぜられました。明治二十九年、一時軍人に転身し、乃木將軍の内意によってフイリビンの占領を企画、しかし、その策がいられず、その地であって、独立軍の黒幕とな

ミカン山 あれこれ

今年のミカンは史上空前の豊作だと言われていますが、その豊作に加えて、バナナ、リンゴなどの大量の出廻りがからんで、空前の安値であることも事実です。こうした傾向は、過去数年米新植された若木が成木になるに従って、年を追うて更に著しくなると思われますが、これは需要の伸びを生産が急速に上廻った結果で、いくらミカンが生産コストが安く

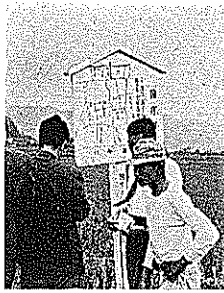
大規模の栽培ができる作物であっても、現在のように四五百円―百円と言うような市況では、大方の新植栽培者の期待は裏切られたはず。もともとミカン栽培は農山村の振興策として、県の首頭で奨励され、ほとんどが融資によって栽培されたものですが、自力で栽培している人達とは別として、多額の融資によ

て開墾新植した人達には、こんご償還の終るまでの年月は次の道としてつづく可能性が多分に出てきた。十市方面で栽培しているナンシにも戦前には採算割れするような時期がありました。永年作物は一度始めると転業することはむずかしいから、要はいまこそじっくりと腰を落ちつけて合理的な栽培に励むことです。

農家の赤信号は米作にもハウス園芸にも既に点せられようとしていますが、自分が苦しい時には人も苦しいに決っていますし、優勝劣敗は千古の鉄則である以上、それに耐え抜けない者は必ず脱落する運命にあると承知すべきです。ともあれ、熱心こそは生活を永遠なものにする。という諺がありますが、作物は正直だから、熱心な管理以外に生活を永続させる方法はないということ、私は過去の果樹栽培の経験から申しあげて、ミカン山の人々にこんごの一層の頑張りを望みます。 十市梨夫

国衙跡 (県指定史跡)

土佐には古くから国府・国庁を中心とした国衙(が)が置かれていたが、比江におかれた時代はわかりません。しかし八世紀の初めには比江に国府があったと伝えられています。その機能は朝廷権力の推移に伴な



い盛衰がはげしかったことが想像され、奈良と平安両朝時代の四百数十年間が、いわば、絢爛の開花期といえます。有名な歌人の紀貫之が国司として比江に

「府中」「国庁」「内裏」などが残り、これまでに当時の古瓦や石仏などが続々と出土。また六町(六百五十四町)四方ほどの国衙区域があつて、土佐の政

治、文化の中心地として役所などが建ち並んでいたことが想像できます。県指定の国衙跡というのは、紀貫之ら代々の国司が住んでいた館(やかた)跡。字内裏正庁跡・字国庁の両区域をふくめたものです。

なお館跡には紀貫之を顕彰する碑が新田あわせて三基あり、付近は小公園地になっており往時をしのぶことができます。

〔原稿募集〕
▽広報は市民の声です。みなさんの原稿をお待ちしています。
▽たのしいこと、かかれた書行、部落のできごとなどご連絡ください。

よみましよ・みましよ